

第 39 回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所るびなす

開催日時：平成 31 年 3 月 27 日(水) 18:00～

出席者：自治会長・目黒様，地域包括センター山潟・小石様，民生委員・大嶋様

ご利用者ご家族・本間様，和田様，

法人代表・斎藤先生，法人総務・物江，管理者・小林

1、はじめに

- ・年度が変わります、一年間ありがとうございました。
- ・病気を病院で治すのではなく地域で、と国も進める方向です。病気を持ったまま地域で暮らすことで、看護小規模多機能の役割があります。小規模多機能は平成 18 年から 10 年経ちましたが中々増えていません。
- ・地域と繋がる場として大事な運営推進会議で我々も評価され質を高めていく必要があり、今回はそのサービス評価のまとめとなります。

2、平成 30 年度サービス評価のまとめ

- ・今回の評価結果および改善計画
 - ・・・ホームページと地域包括センターで公表させていただきます。
- ・理念、目標、中間目標、取り組み
 - ・・・取り組みが先だと作業になってしまう。何を目標としているか見て行くと、理念に辿り着く。皆で共有し、ずれることなく取り組んで行きたい。

3、意見交換

- ・運営推進会議で繋がっているので話しやすく、相談しやすい関係ができておりありがたい。
- ・サービス業は受ける側は無限だが行う側は有限。
- ・顔を合わせて信頼関係ができる。人に会う行動が大事。まずは現場へ行くこと。
- ・身寄りのいない人のケースがあり、勉強させられる。
- ・その人の幸せを考えると自分に返って来る。
- ・地域包括支援センター山潟となり、範囲が狭くなったので慣れると良いと思う。高齢者、自立支援、権利擁護、若い人の生活困窮もあり保護課に繋げている。
- ・自治会長として会議に多く出るがグループワークが多い。学校と地域が連携しやる行事がすごい。自治会役員はどれも誰もやりたくない。地域としてどうしていけば良いか、難しい。何の為かが大事。ヨーロッパでは税 40～50%でも自分に返って来る。日本は見えていないので皆の為にできない。
- ・日々忙しいと何のためにやっているか、本人の気持ちがわかって目標があると、職員の気持ちも変わって行くのでは。何のためか、皆が幸せであるように、何回でも確認しながらやると良い。